

インフラ施設のあり方について

持続可能なインフラマネジメントのあり方検討WG（仮称）

趣旨・目的

持続可能なインフラマネジメントのあり方をテーマに、まずは道路・橋梁を中心にその方針について議論するもの

- 限られた予算や人員の中で、激甚化・頻発化する自然災害や加速化するインフラ老朽化への対応が求められるなか、現在の行政サービス水準を将来に渡って維持し続けることが困難となっている。
- R7年度に実施したあり方検討会では、「新しいインフラを造るより今あるインフラを活かすことによる方針転換すべき」や「インフラの量を縮減し、持続可能な省インフラ型社会への移行を推進すべき」との意見が大勢を占めた。

検討会設置要綱第6条第1項に基づきWGを設置
(WGのメンバーは同条第2項に基づき、座長が別途指名)

開催時期（予定）・議題（案）

- | | |
|-------------------|--|
| 4月頃 第1回WG | ・県が管理するインフラの現状とその課題 ・WGでの論点・方向性について |
| 8月頃 第2回WG | ・持続可能なインフラマネジメント（道路ネットワークなど）のあり方 (客観的なデータに基づく橋梁の更新・修繕、集約等) ・県民自らがインフラを守り、支える担い手であるという意識の醸成 |
| 10月頃 第3回WG | ・第2回WGの深掘りなど |
| 1月頃 第4回WG | ・検討のとりまとめ |

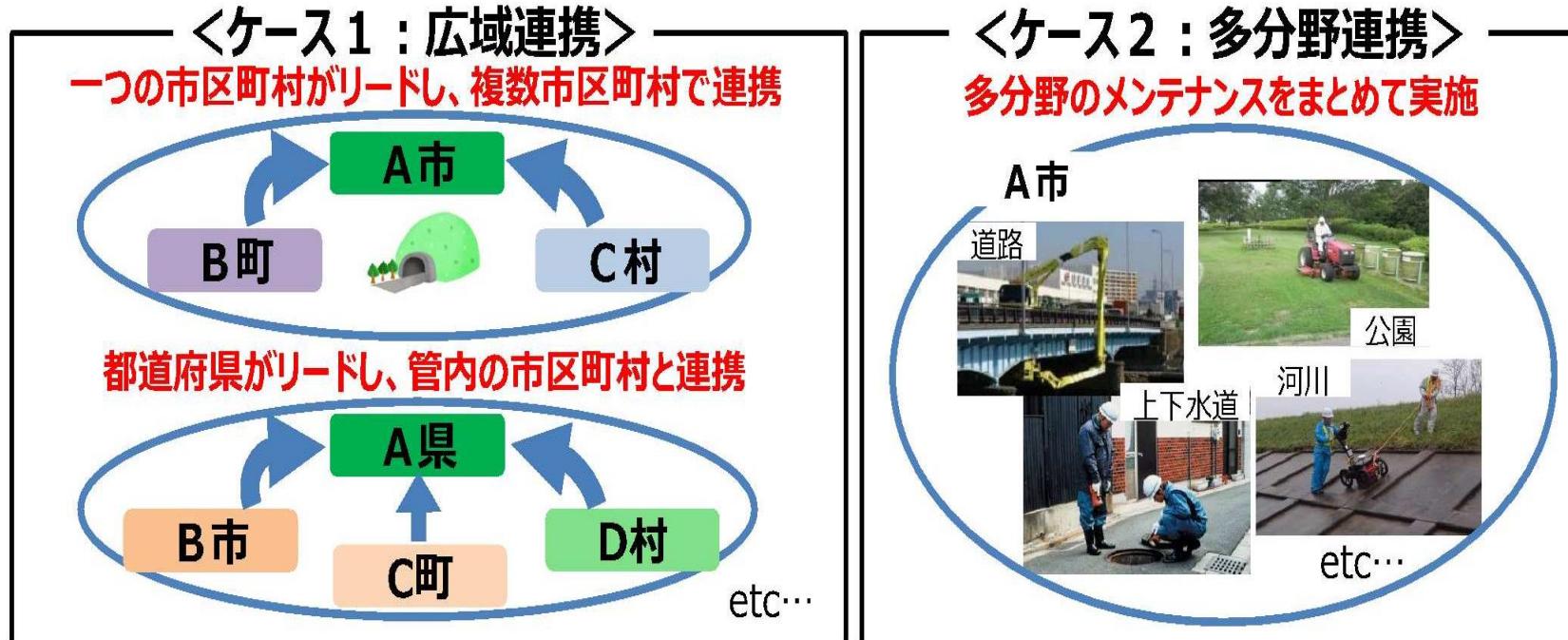
※WGでの検討状況は適宜、親会議にも報告

※WGでの議論と並行しながら、県民の皆さんのが当事者意識をもってインフラの将来像を考え、体験していただけるようなイベントやシンポジウムなども実施予定

地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）

○群マネとは

- 既存の**行政区域**（県市町村）にこだわらない**管理** <ケース1>
- 道路、公園、上下水道など**多分野**をまとめて**管理** <ケース2>



出典：国土交通省HP インフラメンテナンス情報ポータル 群マネモデル地域への支援 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/_pdf/kaikenpanel.pdf

- スケールメリットや創意工夫に伴う業務の効率化、技術職員が不足する自治体への技術的助言などの効果が期待される

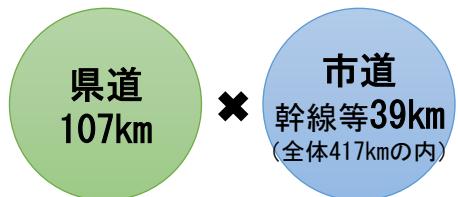
県内初の群マネの試行

これまでの経緯

R6年度～ 国や市町村とインフラメンテナンス勉強会を開催（3回）

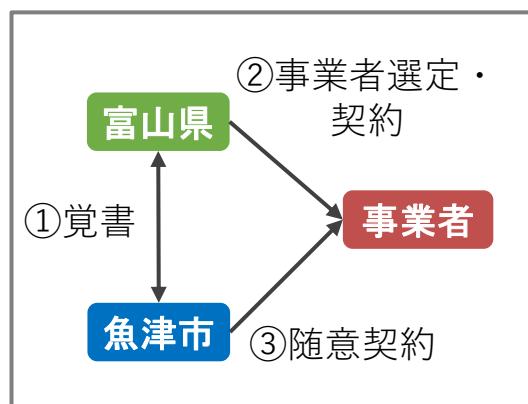


R8年度～ 魚津市と連携実施



- ・道路維持管理業務（パトロール、路面補修）
- ・クラウド型システムを用いた維持管理情報の共有

期待する効果



○事業者側の業務効率化

- ・パトロールの効率化
- ・県道、市道の区別なく近隣箇所の修繕を実施

○発注者側の発注手間の軽減

- ・県はパトロールと小規模修繕をまとめて発注
- ・市は覚書に基づき、県が選定した業者と随契